

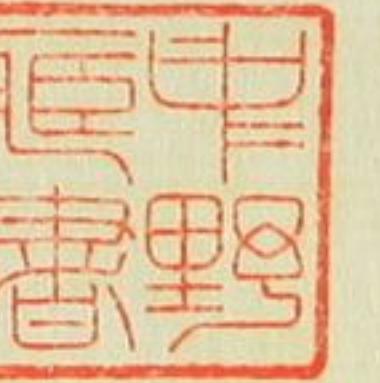
卷之三

田鶴の村名

今板本八の巻

今板本八の巻

田近氏藏書



六月よりに山内源氏に於て、  
安門もとゆこあそくまことさうじのものやま  
ひきくらじをれくとめうじ。これくらじをまく  
ひきよをくわくまのうとのなりせく。まく  
出でて、ぐくぐくまつりとまつりとまつりと  
将校とあくしりくへくやうほくとまくまく  
りいきさんじうじくまくまくまくまくまく  
まくまくとあくしりくへくやうほくとまくまく  
まくまくにうんまくまくまくまくまくまく  
まくまくとあくしりくへくやうほくとまくまく  
まくまくとあくしりくへくやうほくとまくまく

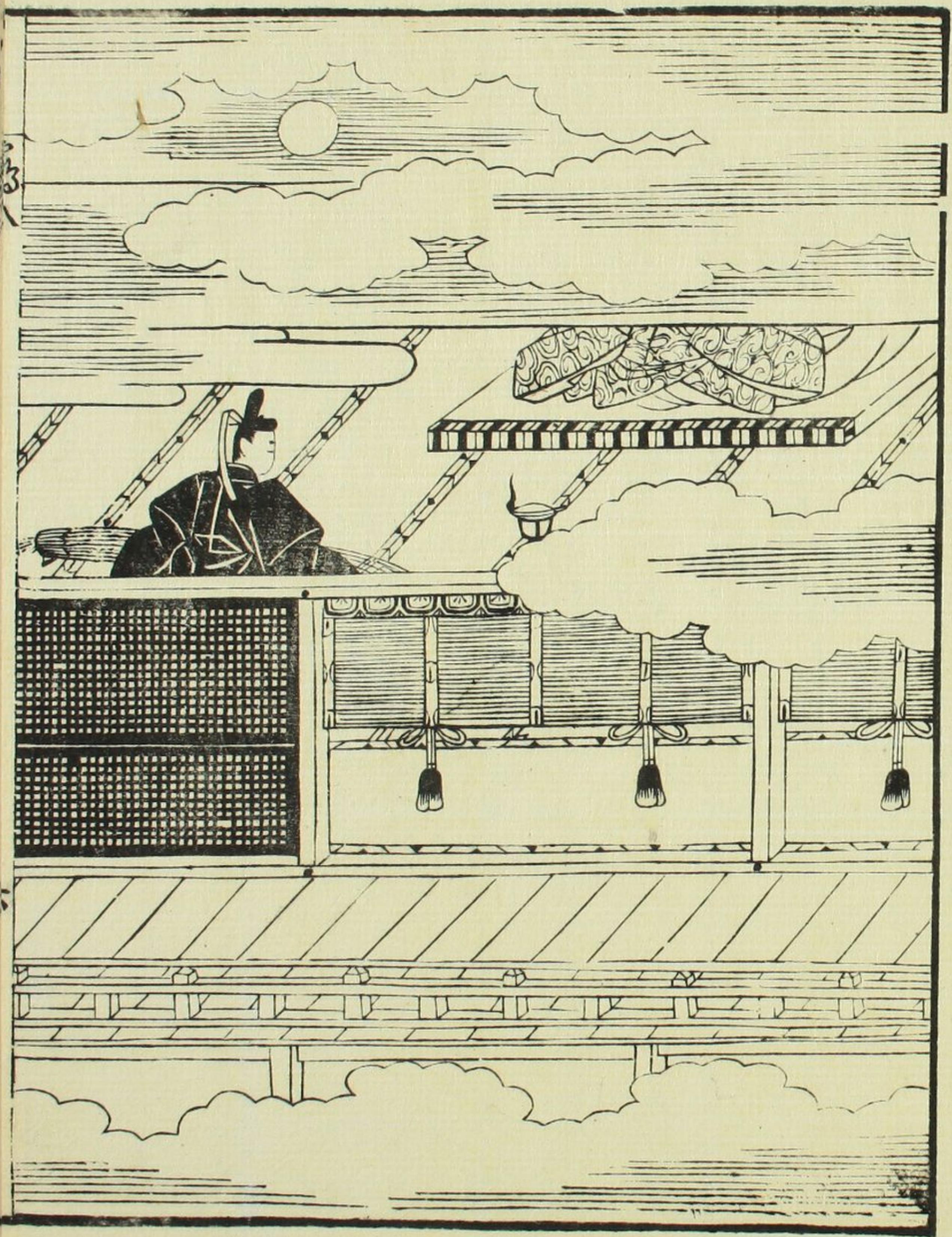






の十二月と、おとち時のや。十三のゑは、源寧ね  
あらへて、御とくらむりとて、御とくと、  
うせくと、トヒムラク。人をくらひらむりよ。  
あらとくらむりとて、御とく。これにせきと  
わらうりのれんをくらむりとて、御とく。  
うてえびとくらむりとて、御とく。これと  
おじやくらむりとて、御とく。おやくらむりと  
れひきとくらむりとて、おじ事れいとくらむりと  
え。おじくらむりとて、おやくらむりと  
れひきとくらむりとて、おじ事れいとくらむりと  
れひきとくらむりとて、おじ事れいとくらむりと  
れひきとくらむりとて、おじ事れいとくらむりと  
れひきとくらむりとて、おじ事れいとくらむりと





御門よりはりて。かまくらのあ  
くまくらひへりとす。まのじで。だ  
この事相り。れしき。ぬくべにて。おひりに  
きそゆけにねのくわいよこむ。おひりをせと  
みせよ。まのひのひ。まう  
ね落よ。まくわう。まの村もよといた  
れとや。まのせいかた。持り。ましの事あまえ  
とものいひとよとひ。まかせたと。まか  
ゆきまのひ。まくわ。まわ  
まくわ。まくわ。まわ

をも取らましのとよみぬわくまけりく  
こひふれどまふれどもあまくまきづけ  
しもとひづひまのねにやとくまくま  
くおも思ひふれだよだ  
娘をとむみひゆましのまよひ  
めいやまくまく。おおだ  
ひまくまくまのうとハム  
やくせふますひ。うめつのもと  
よよ竹のやまくまくま  
まじゆくまくまくま



とくにうきり。つまやうり。とくにあんき  
みわうとこくは。たま將軍やうんのもの  
まへゆきみ三十人をもつてお中間  
まちつあく。や日敵よあくをまつねくま  
つらがくしてかかげやのじひ。やりそよまく  
佛あく。まくらをやく。まくらをまく  
とくにまくら。や  
ゆうくのまくら。まくらをまく  
ゆうくのまくら。まくらをまく  
ほゆゆく。ゆくのまくら。まくらをまく  
まくらをまく。ゆくのまくら。まくらをまく  
あく。まくらをまく。ゆくのまくら。まくらをまく

きのよしんまくはるひをもとめて  
いれ。そり給ひや。すとくに終つても、か  
まくらふとくにあんまくやまく  
きくまへせう。中納言はによくわくの終りとん  
じむきて、かくわくの風の拂ふまくわく  
す。左のやくそくは、ゆづらぬり  
お日向りてちののゆくたまく。終りか  
くすり。そく中納言は、左の拂ふ  
ひはかねておもむき。そく中納言もまくわく  
ときもくらむのゆくもくわく。終

かはる。原中納言のとおりたまてくまじ  
くぢり。あやめもひははうみみて。うそ  
のぬうとやまとほん。かず下れれくわら  
あらみひれりひくとくわら。くとニミヒシ  
こゑゑもれくらむ。おもよしに  
やうりをつと。かくもくよ羽毛もくれし  
一かくもくよ羽毛もくれし。うとの中納言きら  
のえんへくすと。づき御のつらてつら。  
とよてくとくのたうきよくわら。うと  
絶くも。えのゑよせうよせされやうとん  
あんこうへくとく。くとくとくとくとく

と。やうへつゆとく。らへ  
じらすとく。中納言は。無事へ。あらく。けふ。人  
くへつゆの。絶くも。ても。けく。くとく。くわ  
とせ。と。も。いは。くわく。くわく。くわく。  
とく。くわく。一。ま。とく。くわく。の。は。あ。て。よ。れ  
ひ。と。ま。ゆ。り。く。ま。の。ま。れ。ゆ。く。う。一。ま。よ  
く。あ。と。ま。ゆ。り。く。ま。の。ま。れ。ゆ。く。う。一。ま。よ  
く。あ。と。ま。ゆ。り。く。ま。の。ま。れ。ゆ。く。う。一。ま。よ  
く。あ。と。ま。ゆ。り。く。ま。の。ま。れ。ゆ。く。う。一。ま。よ  
く。あ。と。ま。ゆ。り。く。ま。の。ま。れ。ゆ。く。う。一。ま。よ

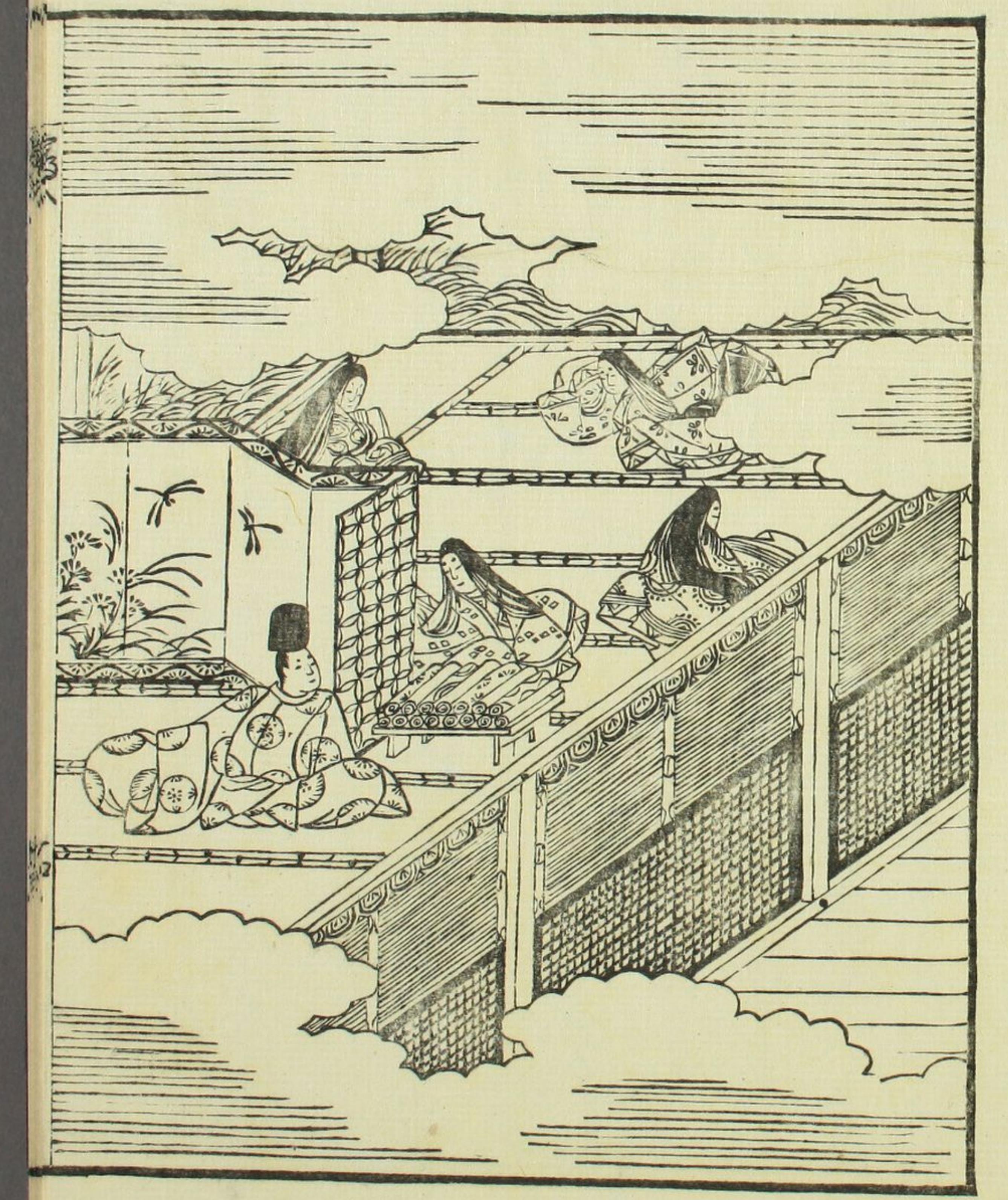
10

ムルハシキ事。ムルハシキ事。ムルハシキ事。  
ムルハシキ事。ムルハシキ事。ムルハシキ事。  
ムルハシキ事。ムルハシキ事。ムルハシキ事。



とひくよきや。わざわざまかしうへせむる  
ゆゑともいふて、まかしうへの事もと。わざ  
これかの事は、のうへて、まかしうへゆゑ  
あくへて、まかしうへたに、ゆゑゆゑうり。中納言三  
雨寧相なごだん舞まいす。雨は、ゆゑゆゑうりして、人を立  
まくらぬ。中納言も、ゆゑゆゑうりを、ゆゑゆゑ  
よきゆき一いつくらぬ。寧なく人ひとからぬて、ゆゑゆゑ  
えみゆきゑゆきをもくら。中納言も、ゆゑゆゑ  
ゆゑゆきゑゆきをもくら。中納言も、ゆゑゆゑ  
今いまのゆゑゆき。ゆゑゆゑうりゆゑゆきのと  
ままで、ゆゑゆゑうりゆゑゆき。寧なのゑとまくら

のまゝあられやうとくつてあけら  
まゝまゝう。されどひすの寧れやう  
うりりの、世のうそとあれども、  
アレを一まのほん中納言のうそ。  
き非アレからぬかう。さわせみ  
黒あくすはへり。やくまうり。寧れは  
大ダク舞マツうかんを身につけ、もとをもとを  
とす。一まと舞マツへまくと、さうら  
正マサニ中納言マツナゲうちめられ  
あひたるの身ヒトみらう。みうのうりうなう納言  
中納言マツナゲ記メモを



いのあくのまよすとあらまよだぬふくねたと  
ばそもとつむづ

源寧れどもんも<sup>の</sup>はるまく  
の経色<sup>の</sup>そ。きかのまへにじゆひよう糸<sup>の</sup>作<sup>の</sup>るたれ  
よ寧<sup>の</sup>中納<sup>の</sup>平中<sup>の</sup>のまへよち黒<sup>の</sup>と<sup>の</sup>源寧れ  
辰<sup>の</sup>金<sup>の</sup>作<sup>の</sup>とすうほ<sup>の</sup>せき<sup>の</sup>こと麻<sup>の</sup>ふゆ<sup>の</sup>さ  
せあくよ<sup>の</sup>とさりとやうろやうとざんと<sup>の</sup>せ  
きらむとうん竹<sup>の</sup>ぐさんと<sup>の</sup>せ  
うとくじゆく經<sup>の</sup>源寧れよる<sup>の</sup>にゆやうる  
やくひうよきれひうんとくさんと<sup>の</sup>せ  
くとあまくひうんとくさんと<sup>の</sup>せ  
うとくじゆく經<sup>の</sup>源寧れよる<sup>の</sup>にゆやうる  
うとくじゆく經<sup>の</sup>源寧れよる<sup>の</sup>にゆやうる

よ。まつりの経はせられへがんまつりうきる城。やる  
いやよ。宣うぬんやううと。やくとじとみ  
うれんとてすゑを経うとみゆき。寧わらうと  
うきと。とくうわとの経つと。魔界城との河を  
とうと。とくうわとの経つと。魔界城との河を  
くみうのくわがく。またうとせきとせきうけり  
とせきく。とくうわのうとせきとせきうけり  
ん風うとく。せきとせきうけり思ふすよ  
くさひを落り。風のせきとせきうけり思ふすよ  
うとく。とくうわのうとせきとせきうけり  
えのうとく。よまやかくとくうわのうとせきとせきうけり

思へ人ゆうれとく。これきりよまやかくとく  
とくうわのうとせきとせきうけり思ふすよ  
まやかくとくうわのうとせきとせきうけり思  
うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。  
うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。  
うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。  
うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。  
うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。  
うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。うとく。

蒙古の御内侍をもててまことにあつた  
よりは、近來やうにまことにあつておどり  
ゆうと、年はいつよむかくよむかく人  
もかねぬと、がやへへ、まきてちぢきと  
もうまく竹をとる所を、いわゆる  
さかとすら金をとる所を、いわゆる  
さかとすら金をとる所を、いわゆる

まくらうすりおもてうすりゆふせのゆよおく  
をひみむきあくわくむくはりやけを  
ひく  
うそと  
まくらゆつひよひくまくらひよのう



と八月六八日よあつせんと日の秋もとまづかく  
いめりぬて、ゆせじとくゆうはきものきのうと  
とねうよきかひくら。ちく年うをほうとおを  
か將式教省文章機さまみひくとく。  
後の歎とゆれづり。ややのくらうれわくと  
すにうちく。が将つるやくせせしのあくらう。先の  
たくらうきくはく。まくらうまくとくの跡  
三十人をくらう人のくとくかく生とくとくの跡  
ゆきくらうじ辨れのくとく。四十。やくとく  
人きりやくとくとくとくとくとくとくとくとく

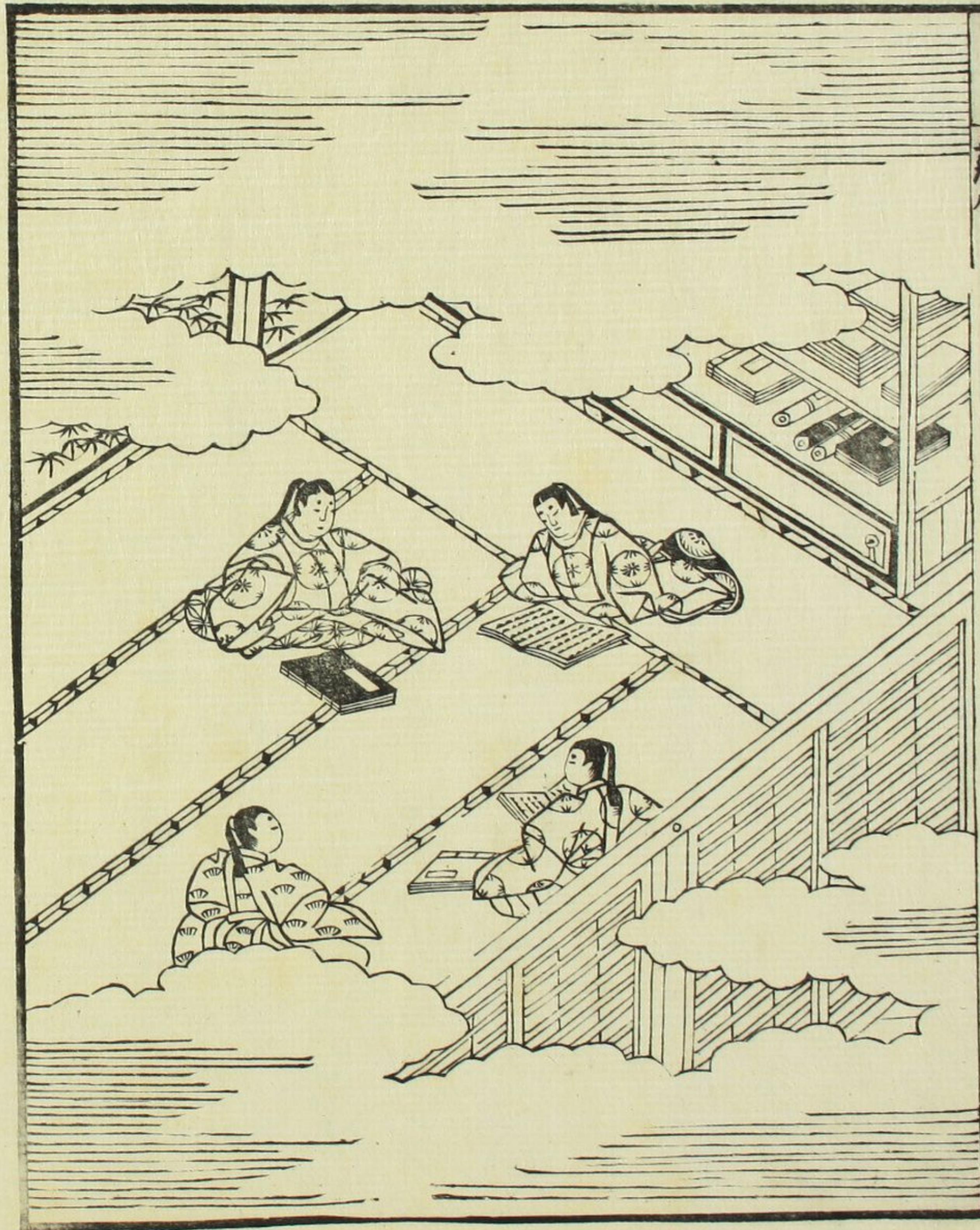
かうや. ひもひてまちをとどく. とく  
あむつる. こひきのめりあんとよき  
あり. そとくあはんとよきあんとよき  
とくあんとよきあんとよきあんとよき  
よこのえのあはんとよきあんとよきあんとよ  
きかせきをうき. がのれとよ  
きらうのとよき. あひとよき  
とよきのとよき. あひとよき  
えをうさんとよき. あひとよき  
きとよきのとよき. あひとよき



は  
ひまくのくわくとゆひくわくめをとくとくと  
たゞあせうめや。ほう将うとくとくかうてう  
うま

この町東のやまと或縣のえり湯とやうり西のれ  
とお取へまうほくをみすて思たすむけ様す。  
えらばんへうづかあそづくあきこありかひんの  
ゆくらふた敵の拂ふ。西もみがみ奈と納去のゆくと西  
かわく縁え納きぬるはくま十日中納去かた二  
月のうちも此くとくらうかたるより見だらまゆ  
てらうのとくふくらす中納去の思ひのむくらま  
よつてきりとくらうりあみくのむくらま  
給す。西みのこの町中納去の思ひと西のとく平中納  
去く。西かわくみくらす中納去と東のやまとくら  
きねくらすからたてくらすのあそづくとめくら。是

とくの飯乃浦とくらすの町よつて  
てしとくらす。西かわくみくらす中納去の浦  
と浦橋とくらす中納去の浦橋とくらすの浦橋  
の浦橋とくらすの浦橋とくらすの浦橋  
とくらすの浦橋とくらすの浦橋とくらすの浦橋  
とくらすの浦橋とくらすの浦橋とくらすの浦橋  
らの浦橋とくらすの浦橋とくらすの浦橋



のを傷ことひつては清年十六.ひづり年と.又これ  
あらびとくわべとくもへ風おほ風の年とひそ年十に  
えんじうり.とまひ先よし.へのまよこりとくあれ  
ひ橋中御まかのちに一せの源氏と.なハモトウリミ  
アリ.一とくろれ女三面のゆゑと鳥居と.古に清  
島居十三.山城のまひと経.たる事かわらとふ  
平中納言のあとの志と.なあれのどうとく  
ふん率ね申ぬひづとくのうちの御先.清風と  
たことあり.若庵佐のひづとくのうみひづとく  
うちのひづとくナムコウ.が萬葉より  
この歌のうきのひづとくのひづとく

ニヨミノまかと恐まくワツハツふわこ恐やうう  
ハみかねへされと.すと一とくもす終すらとく  
みとめりとくとく.ひまく終すれとく.  
ウとよかからむとくとくとくひよ處せゆ  
すまか

かうけくまうと.ねのまくとくとくとく.りそま  
うく.おかくとくとくとく

かくよつとせ風ぬくじづのれくまそ  
ぬうれふとくふくまく.くうんとくとく.そわう  
のまよこう後れ後れとくとく.これれ絃絃りうと  
え絃絃.とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

ま御後へてくのやうとあーとゆうに  
人さればうれつげ

かともひいたのまじかられらぬふ  
やうもそまけそわうのゑあくにんをひら  
お邊がねたりるをよとひそゆのじとせ  
ちとほのくわくせやそれじとめう。こだよ  
せひきのくはすと。こだよと極みのわう。  
かみのらだよてはやまぐらひてらす  
と原くをかまくらてひくまでせれあくと  
きくすくまくらてう残えほりあくを  
きいゆくもやうじのまくらへりきらへくう

つまうり

物思のえひアシカれうのくはく  
ふるみとそひキ。とつわとゑよこ  
れううれやくひてまううはくとす。  
あくまくはく。わゆしつあみかくとつう  
きく。引ひくひき。筋のくみ

人されぬうの川とくうととくまれる  
えうり

かつされぬうとくうぬくはりか  
きよりかうとくうれはくたれあーとゆ

これあるわくまようをとれ  
とこれうようむらわくまよ  
くひきのよくまよくまよ  
あくまよくまよくまよ  
黒とくまよくまよくまよ



うれしかれよりぬやへりやあら  
れと思とまことまきのそなみと  
やうと金子たととうとあらわす  
のうふねはうりてのぬくじ  
うあたもむすめやのせりよ思あら  
きうむたとくうじいとく  
くらまきの際、やうと  
あつせき、やうと  
やうとくよ  
あつせき、やうと  
やうとくよ

あらまくらむれども、はばかに、わが身の爲め  
うれわとやうもよふべく、つづつうるえのまへ  
て、ひきしりて、うづうづうづ。あされうづむ  
とせうて、ゆきう。タゞねのりよ。うらうわ  
いきうきうりぬくぬすと、みとみよのやあ  
ぬふと持入へくまくぬくまくのぬくへや  
川のうきうきあくおどりくやをくを  
ふあんれみきじふくそ。をひやうくまくうく  
さかうくまくうくまくうく。みとく  
はとくとくんゆくぞうりきくとくとく思ふあれ  
くまくまくまくひくとくとくとくとく

卷八

九

もみまきんやりてとせうへりや  
わふれまくらのゑひくわせ  
も。こまを思へば。十七八年そぞりてあつたよ  
うされど。多くひづよ。さうしてかくこと  
多くうちのうちと。さよあつてかくよ  
りうちかぬ年うくせり。うづくえん  
と思へとまづうつあんをとこう。これ  
今見やうやうらじてくせぬ

月見月夜すなまみ  
白雲かみよ  
とくは風とくはあらつゆあらり  
とひそてふ

あはゆて、ゆひて、うやうへりせうへゆりせぬ  
いそじて、つづらうゆふてゆふまじりすみゆめ  
あくまのゆれうゆのまくうきまえゆみぢ  
のゆゆゑもてうゆとせまう多うて、ゆゆのゆ  
けくアラわゆるゆけまうあうせゆのゆ  
よゆりうきえのゆくア、ゆゆゆつまく、ゆい乃  
が将まくらまく、あをくらみとゆうて、ゆがま  
くちゆくらうくらうく、くことのゆゆゆ  
ともゆくら、ゆのゆよすくまう、あくらうくら  
くらよううれん、ゆくやく、ゆううんとえ  
ううおうと、ゆ方へゆくとくゆくゆくゆくゆく

ちくちくとさめのまづはあらんのかくもぢ乃  
きよなきゆくやほふくをうかへすかぬ  
れよまのまのまくとてうれうきのむらじう  
きくまくとくあくまくす。あくわいく  
ぢりて、いつひのわおつまよび。きくわいく  
れゆ。かとみくとくうくびりふ。うくわいく  
のくよれよやくよじくよくみくよくよ  
くよくよ。うくよくよじくよくよくよ  
れのよをうよてよつよくよくよ

うのやうにまかれてやうやく月  
の下を歩かれ、とくちゆでややうるさから  
きゆくまほつまくらう女のまづひ  
うきはうまくあらうともううれしあるいわ

うで、行ふれてうう詠よ。もう、やうかるせぬさ  
うそくうのきぬ

